

# TDB 景気動向調査(全国・概要)

2006年5月調査

2006年6月7日

お問い合わせ先：株式会社帝国データバンク 産業調査部

電話：03-5775-3163 e-mail：keiki@mail.tdb.co.jp

http://www.tdb.co.jp/

景気動向調査専用HP http://www.tdb-di.com/

## 景気DI、前月比0.6ポイント減の47.0、中小企業の景況悪化で2カ月連続減

～ 先行き見通しDIも2カ月連続3系列すべて悪化、先行き不透明感さらに増幅 ～

(調査対象2万313社、有効回答企業9,908社、回答率48.8%)

2006年5月の景気動向指数(景気DI：0～100、50ポイントが判断の分かれ目)は、前月比0.6ポイント減の47.0となり、2カ月連続して悪化した。前月(0.3ポイント減)を上回る悪化幅で、足元経済の伸び悩みがより鮮明となった。

国内経済のデフレ克服が鮮明になってきたことや、雇用増・賃上げによる個人消費への刺激期待によって、景気DIは2006年3月(47.9)に今回の景気回復局面での最高水準に達した。しかし、4月は原油価格の再騰や円高ドル安の進行で、鉄鋼や化学、電機、機械関連など外需関連業界の景況感が大きく後退。また、ガソリン価格の上昇に伴う消費マインドの後退などによって小売業界にも悪影響が波及し、景気DIは3カ月ぶりに悪化に転じていた。

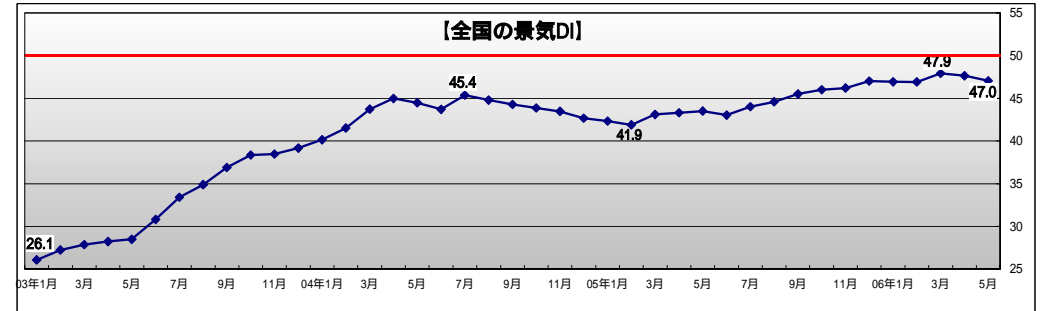
5月に入ってから、株式市場や商品相場の世界的な調整によりゼロ金利の早期解除観測が後退し、円高進行はやや一服。しかし、円高への抵抗力が脆弱で、原油価格の高止まりによる仕入れ単価上昇が収益性を悪化させ始めている中小企業の景況感が大幅に悪化し、全体の景況感を押し下げた。

加えて、天候不順が続いたことによる小売業界の景況感悪化や、国内株式市場がGW明けから大幅下落に見舞われたことも、全体の景況悪化につながった。

今後については、「3カ月後」、「6カ月後」、「1年後」の先行き見通しDIがいずれも2カ月連続して悪化。特に「3カ月後」と「1年後」はともに6カ月ぶりに判断の分かれ目となる50ポイントを下回っており、中・長期的な景気回復に対する不透明感はさらに増幅している。

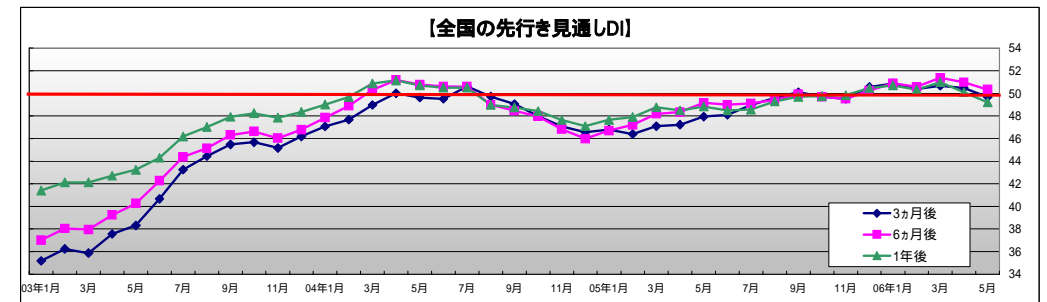
これは、円相場や原油価格に先高観が強く、米経済減速への懸念も高まっていることが背景にある。実際、今回2006年度の為替水準予想を尋ねたところ、多くがさらなる円高進行を見込んでいることが明らかとなった。また、上場企業の今期の業績予想は、これらのリスクを織り込む形で多くの企業が慎重な見方となっている。

さらに、中小企業の景況感は依然として回復途上で今後も楽観できず、利上げや秋の新内閣発足を控えて不透明感も次第に高まっていることから、しばらくは弱含みの展開となる可能性が高まってきた。



景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

景気DI	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	前月比
全体	43.1	43.3	43.5	43.0	44.0	44.6	45.5	46.0	46.2	47.0	46.9	46.9	47.9	47.6	47.0	0.6



先行き見通しDI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

先行き見通しDI	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	前月比
3カ月後	47.1	47.2	47.9	48.1	49.0	49.6	50.1	49.7	49.5	50.6	50.9	50.4	50.7	50.5	49.7	0.2
6カ月後	48.2	48.3	49.2	49.0	49.1	49.4	49.9	49.7	49.5	50.2	50.9	50.6	51.4	51.0	50.3	0.4
1年後	48.8	48.5	48.8	48.5	48.6	49.3	49.7	49.7	49.8	50.5	50.7	50.3	51.0	50.1	49.2	0.9

調査開始は2002年5月

## 業界別:10 業界中7 業界で前月比悪化、'不動産'は5カ月連続改善

業界別では、10 業界中『不動産』(56.8)、『サービス』(51.7)、『その他』(46.2)を除く7 業界で前月比悪化した。特に『製造』(48.7)と『小売』(42.7)、『運輸・倉庫』(47.8)の3 業界はいずれも1ポイント以上の悪化幅となった。

『製造』は、円高一服にもかかわらず自動車や機械関連の悪化に歯止めがかからなかったほか、原油価格の高止まりで鉄鋼関連も悪化に歯止めがかからず、全体では前月比

1.1ポイント減少。『運輸・倉庫』は原油高の影響に加えて改正道路交通法の施行を控え、同1.7ポイント悪化した。

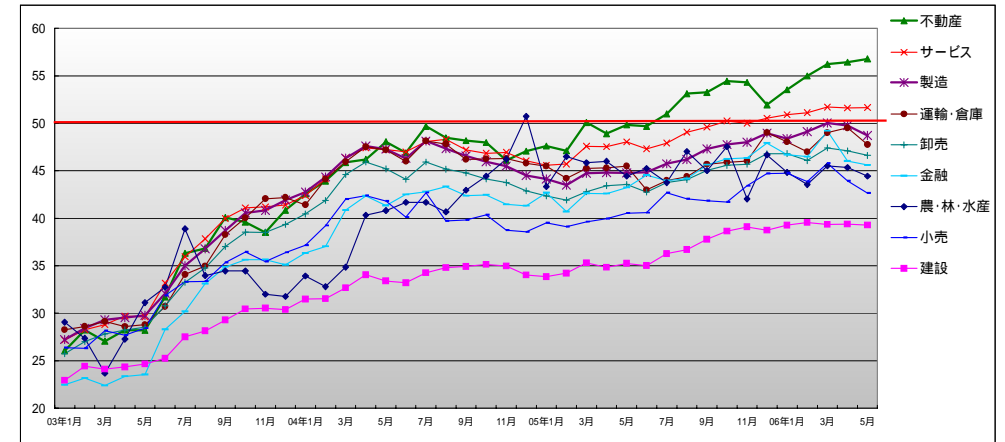
一方、『不動産』は引き続きデフレ脱却期待が根強く、将来的な利上げ実施に向けた駆け込み需要も出始めていることから、同0.4ポイント増と5カ月連続の改善となった。また、『サービス』はGWが天候に恵まれたことによる「旅館・ホテル」、「娯楽サービス」などの景況感改善が奏功し、全体では同0.1ポイント改善した。

### 業界別景気DI

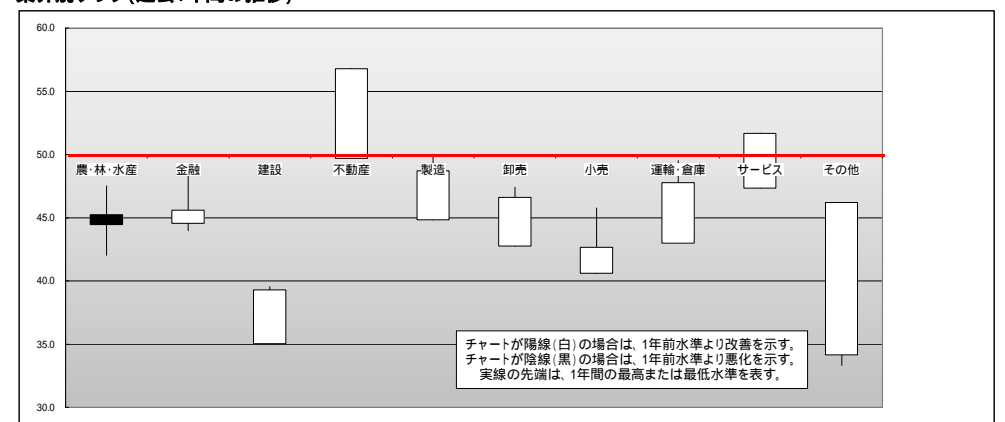
(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後	5月の標準偏差
農・林・水産	46.8	46.0	44.4	45.2	43.8	47.0	45.0	47.5	42.0	46.7	44.8	43.5	45.5	45.3	44.4	0.9	46.5	47.2	47.9	15.7
金融	42.6	42.6	43.2	44.5	44.0	44.2	45.6	46.2	46.3	47.9	46.7	46.5	49.2	46.0	45.6	0.4	48.0	48.4	48.1	17.5
建設	35.3	34.8	35.3	35.0	36.3	36.7	37.8	38.7	39.1	38.7	39.3	39.6	39.3	39.4	39.3	0.1	42.9	43.5	42.8	20.0
不動産	50.1	48.9	49.8	49.7	51.0	53.1	53.2	54.4	54.3	51.9	53.5	55.0	56.2	56.4	56.8	0.4	55.9	56.1	54.6	15.6
製造	38.9	40.5	40.7	40.5	40.9	40.5	41.8	42.2	40.8	42.8	41.0	41.7	42.6	43.2	43.1	0.1	47.3	48.2	48.7	14.3
卸売	37.9	37.8	36.6	38.0	39.5	39.3	39.0	39.3	38.2	43.7	42.9	43.9	43.4	43.8	41.3	2.5	46.4	49.4	47.5	15.6
小売	36.8	37.3	37.9	37.1	37.4	38.5	41.0	39.9	41.2	40.7	40.0	41.8	40.1	41.1	40.4	0.7	45.2	47.7	45.0	20.5
運輸・倉庫	41.7	42.4	41.4	39.5	40.9	42.0	42.3	42.1	43.1	44.1	41.3	40.9	43.9	43.5	42.9	0.6	47.1	50.3	50.3	16.8
サービス	39.7	41.3	39.9	39.9	38.8	40.0	41.0	41.5	40.7	41.5	40.0	41.7	44.6	44.3	43.0	1.3	45.6	48.0	48.8	15.7
その他	45.5	45.8	46.0	45.7	47.2	46.5	46.8	48.8	48.7	50.8	49.2	49.2	50.5	49.2	49.2	0.0	50.5	51.2	50.9	16.6
全体	44.7	44.8	44.8	44.8	45.7	46.2	47.3	47.8	48.0	49.0	48.4	49.1	50.0	49.8	48.7	1.1	51.4	51.9	50.2	17.3
製造	40.7	42.0	42.0	41.1	41.6	41.5	42.2	42.3	41.3	41.8	42.0	41.0	42.1	42.8	42.2	0.6	46.4	47.9	49.0	14.2
卸売	34.7	36.0	37.0	36.5	37.3	36.8	37.4	37.6	39.6	43.6	44.3	41.1	41.1	41.5	40.7	0.8	45.1	46.3	46.7	16.5
小売	36.1	37.4	37.8	36.9	38.3	37.2	38.8	40.6	40.5	41.2	40.0	39.2	40.1	40.4	40.2	0.2	45.8	47.5	46.2	17.7
運輸・倉庫	38.5	40.1	40.1	39.8	39.2	39.8	41.1	41.5	40.8	41.6	43.4	42.7	44.5	45.4	43.2	2.2	45.3	46.8	46.0	16.7
サービス	45.4	45.3	46.1	45.6	46.8	46.5	47.0	48.6	49.9	49.7	49.1	50.6	50.3	50.3	50.3	0.0	51.4	51.8	51.3	14.8
その他	65.8	64.9	58.8	50.0	47.8	57.8	57.1	52.8	55.2	56.0	52.6	56.0	60.0	62.8	62.5	0.3	61.5	56.3	50.0	13.8
全体	46.5	46.6	45.8	43.1	45.6	46.0	47.2	47.4	47.6	48.1	47.5	45.9	48.0	46.4	46.1	0.3	50.3	50.8	47.7	19.4
製造	46.4	46.9	47.0	46.5	47.3	48.3	49.3	49.6	50.1	51.4	51.3	52.0	53.2	52.6	51.7	0.9	53.1	52.9	51.0	17.8
卸売	41.4	41.7	42.0	42.0	43.2	43.6	44.3	44.6	44.2	45.0	46.1	44.1	46.2	45.1	45.2	0.1	48.5	50.4	50.3	16.4
小売	42.8	43.4	43.6	42.7	43.8	44.1	45.0	45.6	45.7	46.8	46.8	46.1	47.4	47.1	46.6	0.3	49.6	50.4	49.3	16.6
運輸・倉庫	42.3	43.7	44.8	44.6	45.3	45.7	44.9	44.4	44.1	46.2	45.3	44.9	48.0	46.4	45.2	1.2	50.0	51.6	53.4	18.5
サービス	36.6	37.1	37.2	40.4	45.3	44.7	43.4	46.5	46.8	51.6	50.8	46.3	49.2	46.7	41.9	3.8	48.7	49.1	49.1	16.3
その他	42.1	43.8	44.9	42.0	47.6	45.1	43.8	47.3	51.3	49.3	49.3	47.1	46.0	45.1	44.6	0.5	49.4	46.4	47.0	15.4
全体	39.7	38.9	34.3	43.8	45.1	38.9	41.7	43.3	42.9	43.6	42.2	44.9	47.8	48.9	40.6	8.3	42.7	45.8	41.7	19.9
製造	45.1	43.5	45.3	44.0	45.1	43.3	45.0	46.4	49.3	46.9	49.3	48.3	48.1	49.2	48.0	1.2	50.0	55.0	54.7	15.6
卸売	44.8	43.4	39.6	43.1	42.2	41.5	42.0	38.8	43.0	39.5	42.2	44.0	48.4	42.8	42.0	0.8	46.2	51.0	49.3	14.9
小売	34.3	35.8	36.3	35.9	38.3	38.2	36.9	36.0	37.6	39.3	38.3	38.5	41.2	39.4	38.0	1.4	42.0	43.8	45.0	17.0
運輸・倉庫	40.6	40.9	44.7	42.7	44.4	44.7	45.6	44.0	45.9	50.2	49.1	49.4	48.0	47.1	47.3	0.2	50.0	49.2	49.2	15.2
サービス	36.1	33.3	33.3	22.9	29.2	35.4	33.3	34.7	26.2	33.3	40.9	37.0	35.7	27.8	36.1	8.3	41.7	38.9	41.7	20.8
全体	39.6	40.0	40.0	40.6	42.7	42.0	41.8	41.7	43.4	44.7	44.7	43.9	45.8	43.9	42.7	1.2	46.6	48.3	48.6	16.3
製造	45.2	45.3	45.5	43.0	44.0	44.4	45.7	45.9	46.0	49.0	48.0	47.0	49.0	49.5	47.8	1.7	49.1	49.6	49.0	18.3
卸売	40.1	40.4	43.0	38.4	41.9	42.5	47.1	47.1	47.8	50.5	47.3	52.5	50.0	54.0	50.0	4.0	55.0	55.6	53.3	11.9
小売	58.3	50.0	53.1	55.2	56.0	57.3	52.4	52.6	53.8	50.0	55.9	55.9	54.8	51.1	54.8	1.1	54.8	56.0	54.8	16.4
運輸・倉庫	50.0	48.3	43.8	48.3	50.0	52.2	50.0	50.0	50.0	55.1	51.5	50.0	51.4	50.0	1.4	50.0	48.7	50.0	11.3	
サービス	45.8	45.1	45.1	44.6	46.1	45.9	48.4	47.5	47.7	48.9	48.9	48.8	47.6	49.0	50.2	0.9	52.3	53.5	51.5	19.5
その他	36.4	39.9	37.7	38.3	42.9	48.6	46.6	46.4	44.9	46.7	43.7	40.5	44.4	42.9	45.2	2.3	47.6	50.5	50.0	13.6
製造	43.5	41.8	44.3	45.3	45.0	43.6	44.2	43.7	45.8	46.3	45.0	46.5	46.7	46.8	47.8	1.0	50.9	51.0	48.8	12.7
卸売	51.0	52.4	52.1	53.8	49.3	49.3	50.7	49.3	50.0	46.7	49.1	49.3	49.2	45.5	47.4	1.9	48.2	47.4	51.8	18.0
小売	44.1	43.4	43.1	41.9	41.0	45.8	43.6	43.8	45.5	45.1	46.9	46.2	45.2	45.4	46.1	0.7	48.2	47.3	48.5	16.7
運輸・倉庫	46.7	46.4	45.8	45.7	45.4	47.9	48.2	48.5	47.9	49.5	48.2	50.3	52.2	49.9	49.9	0.0	50.8	52.4	52.5	17.1
サービス	52.0	52.7	53.7	53.6	53.9	54.2	54.2	55.2	55.5	56.4	56.0	56.7	58.1	57.4	57.8	0.4	58.1	57.9	56.3	15.8
その他	58.3	60.3	59.9	57.7	59.6	61.8	64.7	60.6	60.8	60.1	64.0	60.2	62.5	62.4	0.1	63.3	64.3	61.4	15.1	
製造	45.0	44.3	45.0	43.4	44.5	46.2	46.1	49.6	47.8	47.1	49.3	49.1	49.4	49.7	48.3	1.4	49.7	51.5	49.6	19.9
卸売	48.9	47.2	49.4	46.1	46.2	47.7	47.2	50.8	48.9	48.4	49.4	49.4	47.8	48.8	49.2	0.4	48.7	47.8	48.1	15.6
小売	42.9	50.0	52.1	52.4	47.4	50.0	51.9	52.9	50.0	51.1	51.1	51.3	54.2	47.9	45.6	2.3	45.6	46.7	45.6	13.8
運輸・倉庫	47.4	49.1	49.0	47.7	50.5	47.9	51.6	50.7	50.3	51.0	53.1	50.2	52.0	52.8	51.7	1.1	53.4	52.7	52.3	15.7
サービス	47.6	47.5	48.0	47.3	47.9	49.1	49.6	50.3	50.0	50.5	50.9	51.1	51.7	51.6	51.7	0.1	52.9	53.3	52.4	16.0
その他	36.5	36.7	35.6	34.1	33.3	37.3	36.0	39.5	38.9	40.8	36.7	42.5	43.7	45.0	46.2	1.2	50.8	48.5	47.7	23.0

### 業界別グラフ(2003年1月からの月別推移)



### 業界別グラフ(過去1年間の推移)

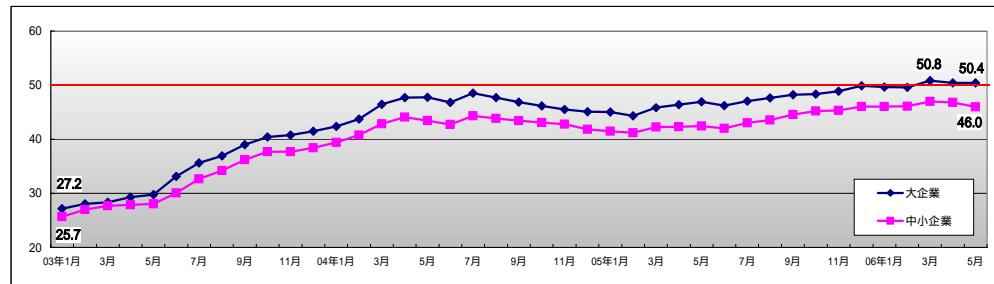


## 規模別: 大企業は前月水準を維持、中小企業は前月比0.8ポイント悪化

規模別では、大企業（50.4）は円高の一服により前月と同水準を維持したものの、中小企業（46.0）は円高への抵抗力が脆弱なうえ、原油高による仕入れ単価上昇で収益悪化に見舞われはじめてのことなどから、前月比0.8ポイント減と大幅に悪化した。

この結果、規模間格差は4.4ポイントと前月（3.6ポイント）から大幅に拡大し、規模間格差は2005年5月（4.5ポイント）に次ぐ2番目の高水準となった。

規模別グラフ(2003年1月からの月別推移)



規模別景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
大企業	45.8	46.4	46.9	46.2	47.0	47.6	48.2	48.4	48.9	49.9	49.7	49.6	50.8	50.4	50.4	0.0	52.0	52.3	51.1
中小企業	42.2	42.3	42.4	42.0	43.0	43.6	44.5	45.2	45.3	46.0	46.0	46.1	47.0	46.8	46.0	0.8	49.0	49.7	48.6

## 地域別: 10地域中8地域で前月比悪化

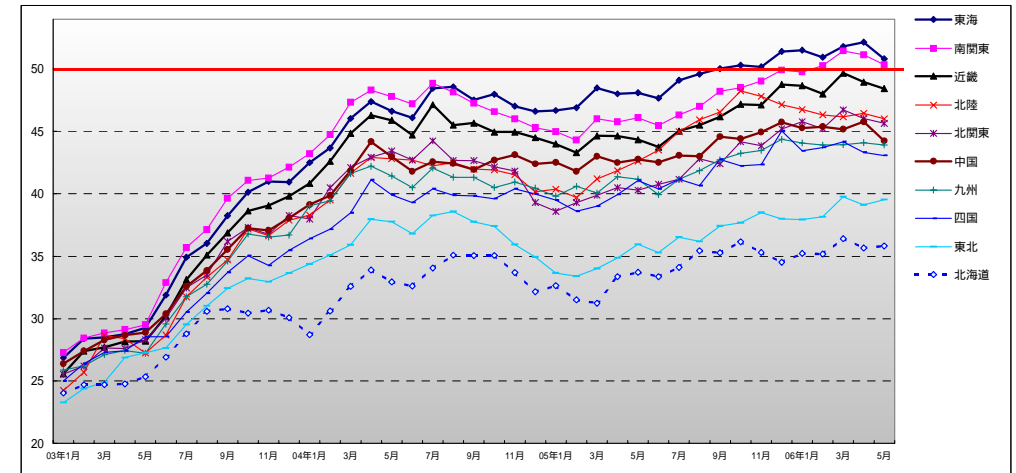
### 牽引役『東海』は前月比1.4ポイント減と大幅悪化

地域別では、10地域中『北海道』（35.8）『東北』（39.5）を除く8地域で前月比悪化した。

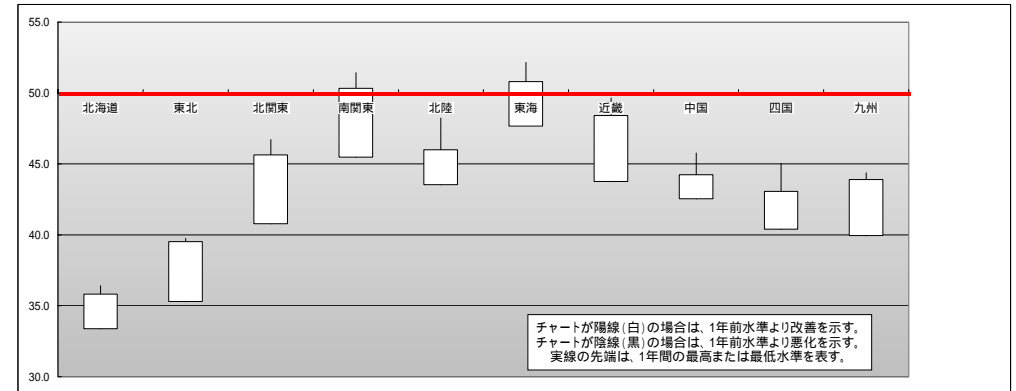
特に、全体の景況感を引っ張ってきた『東海』（50.8）は同1.4ポイント減、『中国』（44.2）も同1.6ポイント減と、自動車関連業界の景況感悪化の影響を受けていずれも1ポイント以上の大幅悪化となった。また、『南関東』（50.3）も同0.8ポイント悪化した。『東海』とともに判断の分かれ目となる50ポイントを維持した。

一方、『北海道』と『東北』は季節要因もあってそれぞれ同0.1ポイント増、同0.4ポイント増とわずかながらも改善。この結果、最低の『北海道』と最高の『東海』との景況感格差は15.0ポイントと前月（16.5ポイント）比1.5ポイント縮小したものの、依然として15ポイント台の高水準が続いている。

地域別グラフ(2003年1月からの月別推移)



地域別グラフ(過去1年間の推移)



地域別景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
北海道	31.2	33.4	33.7	33.4	34.1	35.4	35.3	36.2	36.3	34.5	35.2	35.2	36.4	35.7	36.8	0.1	42.5	43.3	42.6
東北	34.0	34.9	35.9	35.3	36.5	36.2	37.4	37.7	38.5	38.0	37.9	38.1	39.8	39.1	39.5	0.4	44.2	45.0	44.8
北関東	39.9	40.5	40.3	40.8	41.2	42.8	42.4	44.2	43.9	45.2	45.8	45.2	46.7	46.0	45.7	0.3	48.6	49.4	48.3
南関東	46.0	45.8	46.1	45.5	46.3	47.0	48.2	48.5	49.0	49.9	49.8	50.3	51.4	51.1	50.3	0.8	52.2	52.7	51.6
北陸	41.2	41.9	42.6	43.5	45.0	45.9	46.5	48.2	47.8	47.1	46.7	46.3	46.2	46.5	46.0	0.9	48.8	49.2	47.3
東海	48.5	48.0	48.1	47.7	49.1	49.6	50.0	50.3	50.2	51.4	51.5	50.9	51.8	52.2	50.8	1.4	52.7	52.3	50.2
近畿	44.6	44.6	44.3	43.8	45.0	45.5	46.2	47.2	47.1	48.8	48.7	48.0	49.7	49.0	48.4	0.9	50.8	51.6	50.1
中国	43.0	42.5	42.8	42.5	43.1	43.0	44.6	44.4	44.9	45.7	45.3	45.4	45.2	45.8	44.2	1.6	47.4	48.1	47.1
四国	39.0	39.9	41.1	40.4	41.2	40.6	42.8	42.2	42.4	45.0	43.4	43.7	44.2	43.3	43.1	0.2	45.4	46.8	47.1
九州	40.1	41.4	41.2	39.9	41.2	41.9	42.7	43.2	43.5	44.4	44.1	43.9	43.9	44.1	43.9	0.2	46.6	48.1	47.8

## 業界別の景況感「現在」(2006年5月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 ( = 良いと判断した理由、 x = 悪いと判断した理由)
	4月	5月	6月	
農・林・水産	45.3	44.4	-	x 天候不順による畑作物の生育の遅れと、生乳生産の抑制による悪影響が出ている(農協)
金融	46.0	45.6	-	取扱状況が上向き(クレジットカード) ゴルフ会員権の相場も上がり基調だったが、ここにきて足踏み状態に入った感がある(ゴルフ会員権) x 過払い金請求返還の急増により期間損益に影響がある(消費者金融) x 貸金業上限金利の見直しによる利息収入の減収(事業者向け金融)
建設	39.4	39.3	-	電気設備の現場管理技術者、職人とも不足気味に推移している。見積物件、設計物件は増加している(電気工事) 石油化学プラント関係の大型定期補修(SDM)の周期に当たっており工事量が増加(管工事) x 公共事業費の削減・年度替わりの時期で閑散期(土木工事) x アルミや鉄鋼などの地金が高騰しているにも拘わらず、製品価格に反映されず、それどころか安値競争受注が続いている(板金工事) x 大都市圏では不動産投資信託の影響で活発なマンション建設が行われているが、地方には建設需要がない(管工事)
不動産	56.4	56.8	-	不動産売買では物件の品薄感が継続しており、大型案件は完全な売り手市場、小型案件も、地域によっては売り手市場となっている(不動産仲介) 一部地価上昇があり、販売好調であるが、郊外型戸建・マンションは供給過剰で幾分陰りがある。全体としては好調(建物売買) x 仕入れ価格が若干上昇しているが、販売価格に転嫁できない(建物売買)
製造	49.8	48.7	-	小売店頭での消費が天候(雨が多い)不順で芳しくないが、クールビズ対応の投入前倒しで出荷は前年比増(繊維製品製造) 全体の設備投資は依然活発ではあるが、自動車関係の大きな設備投資計画は一巡したことでやや減少(金属工作機械用部品製造) x 原紙価格の大幅値上げがあったが製品に転嫁できない(紙器製造) x 医療用機器の分野は低迷したままで、特に改善見られない(医療用機器製造)

業界名	景気DI			判断理由 ( = 良いと判断した理由、 x = 悪いと判断した理由)
	4月	5月	6月	
卸売	47.1	46.6	-	6月より施行の違法駐車対策により駐車場管理機器の需要が高まっている(一般機械器具卸) 景気回復に伴い物流が増加して包装資材も増加している(紙製品卸) x 天候が不安定で売れ行きがあまり良くない(飲料卸) x 燃料高の影響で仕入れ価格が上昇するも、販売価格への転嫁が難しい状況にある(和洋紙卸) x 2006年4月からの診療報酬引き下げの影響で、歯科医師の購買意欲が減退している(医療用品卸)
小売	43.9	42.7	-	原油高で、低燃費車、小型車、軽自動車の引き合いが活発(新車販売) 天候不順によりビール系飲料の業務用出荷量は減少したが、第三のビールは、増税の影響で仮需あり出荷量は増加(酒小売) x 来店客や電話問い合わせ少なく、販売も前年同期比減少(新車小売) x 仕入れ単価上昇分を売価に転嫁できていない(ガソリンスタンド) x 不順な天候とGW中の旅行消費などの影響が消費意欲は弱含みのまま、月が明けるとセール待ち状態に入ると思われる(婦人服小売)
運輸・倉庫	49.5	47.8	-	外航は燃料油高・円高で下落基調だが利益は過去と比べると格段に良い。内航は4月から備船料が10%程度上昇し、利益率が改善傾向(海運) x 大型連休は家族旅行中心に活況を呈したが、その後は動きなく、ボーナス待ち。一方、団体客の動きは依然として低調(旅行代理店) x 燃料価格上昇分を吸収できない。顧客が料金交渉に応じてくれないうえ、競争激しく従わざるを得ない(一般貨物自動車) x 規制緩和の影響でタクシーの台数が増え、1台あたりの売り上げも年々減少。また、LPガスの価格高騰もあり、コストアップになっている(タクシー業)
サービス	51.6	51.7	-	制御系のシステム開発だけでなく、業務系のシステム開発も活発化している(受託開発ソフトウェア) 金融系のアプリケーションシステム開発が増加傾向である(受託開発ソフトウェア) 関東地区ではソフトウェア開発技術者の不足感を感じるが、地場においては案件数が増えているとは感じない(受託開発ソフトウェア) x 受注件数単価とも低下している(広告制作) x 電化住宅の増加など他燃料との競争が激化。原料費の高騰も響く(ガス供給業)

「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

## 業界別の景況感「先行き」(2006年5月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 ( = 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)	
	4月	5月	6月		
農・林・水産				住宅建築意欲が景気回復により上昇するか、ローン金利上昇により減退するか、それ次第(林業) 天候不順による畑作物の生育の遅れと、生乳生産の抑制が先行きどの程度解消されるか不透明である(農協)	
	3カ月後	48.0	46.5		-
	6カ月後	50.0	47.2		-
	1年後	48.7	47.9		-
金融				消費税率引き上げ問題再燃で高額商品の動向が心配(クレジットカード) 景気動向が見えにくい状況下、ゴルフ会員権相場も先の見通しが立てにくい(ゴルフ会員権) × 上限金利の法改定が国会で審議される予定であるが、引き下げになる可能性が高い(消費者金融) × 都市部の景気は持ち直しの兆しも、地方まで浸透していない(信用金庫) 大型プロジェクトである羽田滑走路拡張工事が2006年末より始動するため(管工事) 為替や石油価格の動向、米国と中国の景気動向次第では、設備投資が引き締まる可能性があり、楽観は出来ない(機械器具設置工事) × 市町村合併により公共工事の競争激化が予想される(土木工事) × 自治体の予算減と人口の減少、高齢化で活気がない。なんらかの施策が必要(土木工事)	
	3カ月後	49.4	48.0		-
	6カ月後	49.4	48.4		-
	1年後	49.7	48.1		-
建設				企業の設備投資意欲が高まりつつあり、工業団地進出について引き合いが多くなってきている(土地売買) × 不動産の価格が上昇しており、先行き販売が鈍るのではないかと心配がある(不動産仲介) × 株式市場の下落は資産効果をマイナスに働かせることから、個人消費の収縮を通じて景気の不透明感が強まる(貸家業)	
	3カ月後	43.6	42.9		-
	6カ月後	44.5	43.5		-
	1年後	43.7	42.8		-
不動産				ICタグ関連などの電子部品関連が好調(印刷関連サービス) 車のモデルチェンジによる増産計画がある(繊維製品製造) × 燃料、原料の値上がりが続く、中小は納価、売価は上げられない状況。大手企業は高みの見物(乳製品製造) × 北米産輸入牛肉の再開によるさらなる価格下落懸念(肉製品製造) × 新薬開発のコスト増加とジェネリック商品の安売りが影響する(医薬品製造) × 中国のインフレ経済の影響もあり、仕入価格が上昇傾向にある。販売価格へ転嫁できる環境ではなく、今後厳しさが予想される(寝具製造)	
	3カ月後	55.9	55.9		-
	6カ月後	55.8	56.1		-
	1年後	55.5	54.6		-
製造				海外、特に台湾、韓国での半導体設備投資が動いており期待できる(電子材料卸) × 紙類の値上げがあり、価格転嫁ができるかどうか、不透明(和洋紙卸) × まちづくり三法改正前の駆け込み出店で、大手スーパーが小規模のエリアまで出店し始めた。取引先が中小零細小売のため厳しくなる(食品・飲料卸) × 金属素材、原油価格の値上がり分を価格に転嫁できない(金物卸)	
	3カ月後	50.3	49.6		-
	6カ月後	51.0	50.4		-
	1年後	50.2	49.3		-
卸売				サッカーワールドカップ需要が一段落して、しばらくは需要落ち込みが予想される。年末に向け、大型家電などの需要が盛り上がり予想。2007年は新Windowsの登場でパソコン関連需要に復活に期待(家電小売) × 異業種や元売りからの川下への参入、セルフ給油所の増加、販売競争の激化は免れない(ガソリンスタンド) × まちづくり3法改正施行前の駆け込み出店が増加する可能性が大きい(スーパー)	
	3カ月後	48.5	46.6		-
	6カ月後	49.2	48.3		-
	1年後	50.0	48.6		-
小売				羽田空港埋立工事が開始され、輸送量が増加すると考えられる(沿海貨物) × 今後とも原油高騰に伴う物流コストの上昇が続くと思われる(港湾運送) × 米国の株式市場が不安定な動きを見せ、アジアに関して中国や北朝鮮の動向、韓国との関係などの不安要素が多々見受けられる(外航海運)	
	3カ月後	49.5	49.1		-
	6カ月後	50.2	49.6		-
	1年後	50.2	49.0		-
運輸・倉庫				個人情報保護、セキュリティ対策、日本版SOX法対応など、ソフト開発などに関するニーズは高まる(受託開発ソフトウェア) サッカーワールドカップ等のビックイベントが景気回復を持続させる(映画・ビデオサービス) 4月で官需の大型案件はほとんど終了したが、民需は少しずつ増加傾向にある。全体的な見通しはまだ良く見えない(情報処理サービス) × 人件費の割合が高いにもかかわらず人手不足が受注価格に反映してない不思議な業界。薄利多売も限界が来るのではと危惧している(受託開発ソフトウェア)	
	3カ月後	53.6	52.9		-
	6カ月後	54.1	53.3		-
	1年後	53.7	52.4		-
サービス				「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。	

業界名	景気DI			判断理由 ( = 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)	
	4月	5月	6月		
卸売				海外、特に台湾、韓国での半導体設備投資が動いており期待できる(電子材料卸) × 紙類の値上げがあり、価格転嫁ができるかどうか、不透明(和洋紙卸) × まちづくり三法改正前の駆け込み出店で、大手スーパーが小規模のエリアまで出店し始めた。取引先が中小零細小売のため厳しくなる(食品・飲料卸) × 金属素材、原油価格の値上がり分を価格に転嫁できない(金物卸)	
	3カ月後	50.3	49.6		-
	6カ月後	51.0	50.4		-
	1年後	50.2	49.3		-
小売				サッカーワールドカップ需要が一段落して、しばらくは需要落ち込みが予想される。年末に向け、大型家電などの需要が盛り上がり予想。2007年は新Windowsの登場でパソコン関連需要に復活に期待(家電小売) × 異業種や元売りからの川下への参入、セルフ給油所の増加、販売競争の激化は免れない(ガソリンスタンド) × まちづくり3法改正施行前の駆け込み出店が増加する可能性が大きい(スーパー)	
	3カ月後	48.5	46.6		-
	6カ月後	49.2	48.3		-
	1年後	50.0	48.6		-
運輸・倉庫				羽田空港埋立工事が開始され、輸送量が増加すると考えられる(沿海貨物) × 今後とも原油高騰に伴う物流コストの上昇が続くと思われる(港湾運送) × 米国の株式市場が不安定な動きを見せ、アジアに関して中国や北朝鮮の動向、韓国との関係などの不安要素が多々見受けられる(外航海運)	
	3カ月後	49.5	49.1		-
	6カ月後	50.2	49.6		-
	1年後	50.2	49.0		-
サービス				個人情報保護、セキュリティ対策、日本版SOX法対応など、ソフト開発などに関するニーズは高まる(受託開発ソフトウェア) サッカーワールドカップ等のビックイベントが景気回復を持続させる(映画・ビデオサービス) 4月で官需の大型案件はほとんど終了したが、民需は少しずつ増加傾向にある。全体的な見通しはまだ良く見えない(情報処理サービス) × 人件費の割合が高いにもかかわらず人手不足が受注価格に反映してない不思議な業界。薄利多売も限界が来るのではと危惧している(受託開発ソフトウェア)	
	3カ月後	53.6	52.9		-
	6カ月後	54.1	53.3		-
	1年後	53.7	52.4		-

「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

## 調査先企業の属性

### 1. 調査対象(2万313社、有効回答企業9,908社、回答率48.8%)

#### (1) 地域

北海道	508	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	960
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	629	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,533
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	594	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	640
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,475	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	315
北陸(新潟 富山 石川 福井)	493	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	761
		合計	9,908

#### (2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	24	小売	飲食料品小売業	63	
金融	125	(447)	繊維・繊維製品・服飾品小売業	39	
建設	1,273		医薬品・日用雑貨品小売業	28	
不動産	216		家具類小売業	16	
製造	飲食料品・飼料製造業		366	家電・情報機器小売業	50
	繊維・繊維製品・服飾品製造業		121	自動車・部品小売業	48
	建材・家具・窯業・土石製品製造業		251	専門商品小売業	136
	パルプ・紙・紙加工品製造業		104	各種商品小売業	61
	出版・印刷		201	その他の小売業	6
	化学品製造業		388	運輸・倉庫	335
	鉄鋼・非鉄・鉱業		432	飲食店	30
	機械製造業	416	郵便業・電気通信業	14	
	電気機械製造業	347	電気・ガス・水道・熱供給業	13	
	輸送用機械・器具製造業	75	リース・賃貸業	154	
(2,867)	精密機械・医療機械・器具製造業	67	旅館・ホテル	35	
	その他製造業	99	娯楽サービス	54	
	卸売	飲食料品卸売業	376	放送業	19
		繊維・繊維製品・服飾品卸売業	209	メンテナンス・整備・検査業	119
		建材・家具・窯業・土石製品卸売業	404	広告関連業	159
		紙類・文具・書籍卸売業	116	情報サービス業	357
		化学品卸売業	302	人材派遣・紹介業	35
		再生資源卸売業	16	専門サービス業	189
		鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売業	371	医療・福祉・保健衛生業	62
		機械・器具卸売業	1,033	教育サービス業	15
その他の卸売業		401	その他サービス業	116	
			その他	22	
		合計	9,908		

#### (3) 規模

大企業	2,368	23.9%
中小企業	7,540	76.1%
合計	9,908	100.0%
うち上場企業	(394)	(4.0%)

### 2. 調査事項

- ・景況感(現在・3カ月後・6カ月後・1年後)
- ・経営状況(売り上げ・生産・出荷量・仕入れ・販売単価・在庫・設備稼働率・従業員数・時間外労働時間・設備投資・雇用過不足感)および金融機関の融資姿勢について
- ・為替動向に対する企業の影響調査

### 3. 調査時期・方式

2006年5月23日～31日(インターネットリサーチ方式)

## DI(景気動向指数)について

### 調査目的・調査項目

TDB 景気動向調査は、「国内景気の実態把握」を主目的として、各業界の現況・先行きに関する判断や各企業の業績・環境など、企業活動全般に関する調査項目について全国2万社以上を対象に月次で実施する統計調査(ビジネス・サーベイ)で、2002年5月から実施している。

### 調査先企業の選定

調査先企業は全国全業種・全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

### DI算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス Diffusion Index)は、調査先企業による7段階の判断に、それぞれ下表カッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。

非常に悪い (0)	悪い (1/6)	やや悪い (2/6)	どちらとも いえない (3/6)	やや良い (4/6)	良い (5/6)	非常に よい (6/6)
0	16.7	33.3	DI=50 判断の 分かれ目	66.7	83.3	100

50を境にそれより上であれば「良い」超過、下であれば「悪い」超過を意味し、50が判断の分かれ目となる。なお、小数点第2位を四捨五入している。また、DIの算出においては、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、1社1票の単純平均の形をとっている。

### 企業規模区分

大・中小企業の分類については、中小企業基本法に基づいて業種別に以下のとおり設定している。

業界名	大企業	中小企業
製造業・ その他の業種*	資本金：3億円を超える または 従業員数：300人を超える	資本金：3億円以下 または 従業員：300人以下
卸売業	資本金：1億円を超える または 従業員数：100人を超える	資本金：1億円以下 または 従業員：100人以下
小売業	資本金：5千万円を超える または 従業員：50人を超える	資本金：5千万円以下 または 従業員：50人以下
サービス業**	資本金：5千万円を超える または 従業員：100人を超える	資本金：5千万円以下 または 従業員：100人以下

\* その他の業種には、鉱業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、金融・保険業、不動産業が含まれる。

\*\* サービス業には、クリーニング業、物品賃貸業など、日本標準産業分類の大分類しサービス業に分類される業種が該当する。

©TEIKOKU DATABANK,LTD.

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権者の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。